

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 05-245964

(43)Date of publication of application : 24.09.1993

(51)Int.Cl.

B32B 5/24
A47C 27/14
B09B 5/00
// B29B 17/00
B29K 25:00
B29K105:04
B29K105:26

(21)Application number : 04-080449

(71)Applicant : KONO SHIGEYUKI

(22)Date of filing : 02.03.1992

(72)Inventor : KONO SHIGEYUKI

(54) HEAT AND COLD PROTECTING JIG

(57)Abstract:

PURPOSE: To effectively use foamed styrol in the protection of an animal and a plant by grinding used molded foamed styrol to sew the ground one into a bag.

CONSTITUTION: Once molded used foamed styrol is ground to be sewn into a cloth bag so as to prevent the movement of ground styrol. This product is used as a heat and cold protecting jig in the same way as a heat and cold protecting jig using cotton or wool. Heat and cold protecting effect is obtained by the heat insulating effect and shock absorbing capacity of foamed styrol and the reutilization of foamed styrol is achieved. Since no cotton or wool is used, an animal and a plant are naturally protected.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-245964

(43)公開日 平成5年(1993)9月24日

(51)IntCl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 3 2 B 5/24	1 0 1	7016-4F		
A 4 7 C 27/14		Z 6908-3K		
B 0 9 B 5/00		Q		
// B 2 9 B 17/00		8824-4F		
B 2 9 K 25:00				

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 2 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号 特願平4-80449

(22)出願日 平成4年(1992)3月2日

(71)出願人 593060539

河野 成行

兵庫県神戸市東灘区北青木3丁目22-5

(72)発明者 河野 成行

兵庫県神戸市東灘区北青木3丁目22-5

(54)【発明の名称】 防暑、防寒、防衛具

(57)【要約】

【目的】 防暑、防寒、防衛具として使用するもの。

【構成】 一度成型使用された発泡スチロールを砕き粉粒状にして綿、毛等の代替品として使用する。将来は粉粒状の発泡スチロールを布等による布団状にして使用するようになると考える。

【効果】 従来は綿、毛等を使用していたが使用済の発泡スチロールを使用するので

① 放棄、埋立、焼却する必要がなくなる。

② 防暑、防寒具として利用する事が出来る。

③ 綿、毛等を使用しないのでそれだけ自然の動植物の保護に役立つ。

④ 自動車等に使用すれば防暑、防寒されるため、それ等に使用していたガソリンの消費がなくなる。

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 放棄、埋立、焼却している成型使用済の発泡スチロールを粉砕し布等に入れ縫い込んで防暑、防寒、防衛に綿、毛等の代りに使用するものである。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 防暑、防寒、防衛具。

【0002】

【従来の技術】 一度成型使用された発泡スチロールは放棄、埋立、焼却の方法以外すべがなかった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

① 放棄、埋立、焼却していた発泡スチロールを使用するので何度も使用可能である。

② 綿、毛等を使用しないので自然の動植物の保護になる。

【0004】

【課題を解決するための手段】 一度成型使用された発泡スチロールを粉砕機によって粉砕し綿、毛等を使って防暑、防寒、防衛具に使用していたものの代替品として使用するため従来放棄、埋立、焼却して自然破壊していたが、それを防ぐ事が出来る。

【0005】

【作用】 発泡スチロールは断熱材として住宅建築、又衝撃に強い事から器機の破損を防ぐために使用されていた。それ等の利点を布等の袋に粉砕した発泡スチロール

を入れ縫い移動するのを防げば、

① 防暑、防寒として利用した場合、体温、室温等の断熱に効果がある。

② 衝撃にあっても衝撃が伝わりにくいので防衛効果がある。

③ 水を吸収しないので濡れにくく乾き易い。

④ 重量は軽いので重量的負担が少ない。

【0006】

【実施例】 文化コタツの布団に綿の替りに使用したところが一度温めれば温度が逃げないので電気使用量が減った。敷布団、掛布団に使用したところ体温が逃げないので暑い位であった。外窓に使用したところが室温が下らず、早朝の一番寒い時間でも 14 度の室温が保たれていた。

【0007】

【発明の効果】

① 実施例のように防寒に役立つのでジャンパー、ズボン等に利用すれば防寒の役は十分はたし得る。

② 室温が下らないことから自動車等に使用すれば冬は暖房夏は冷房に効果がある。

③ 放棄、埋立、焼却しないので、自然破壊や埋立地の減少に役立つ。

④ 綿、毛等を使用しないので自然の動植物の保護になる。

⑤ 布団状にするので成型は不要で何度も同じものが使える。

フロントページの続き

(51) Int. Cl. 5

B 2 9 K 105:04

105:26

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所